

ブルーギル



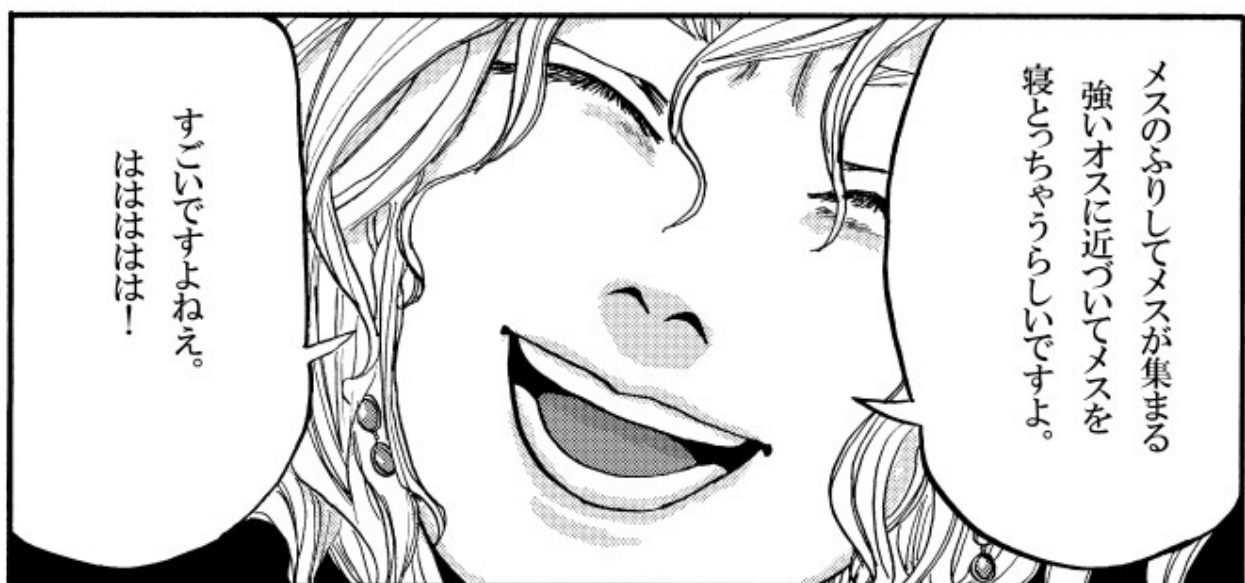
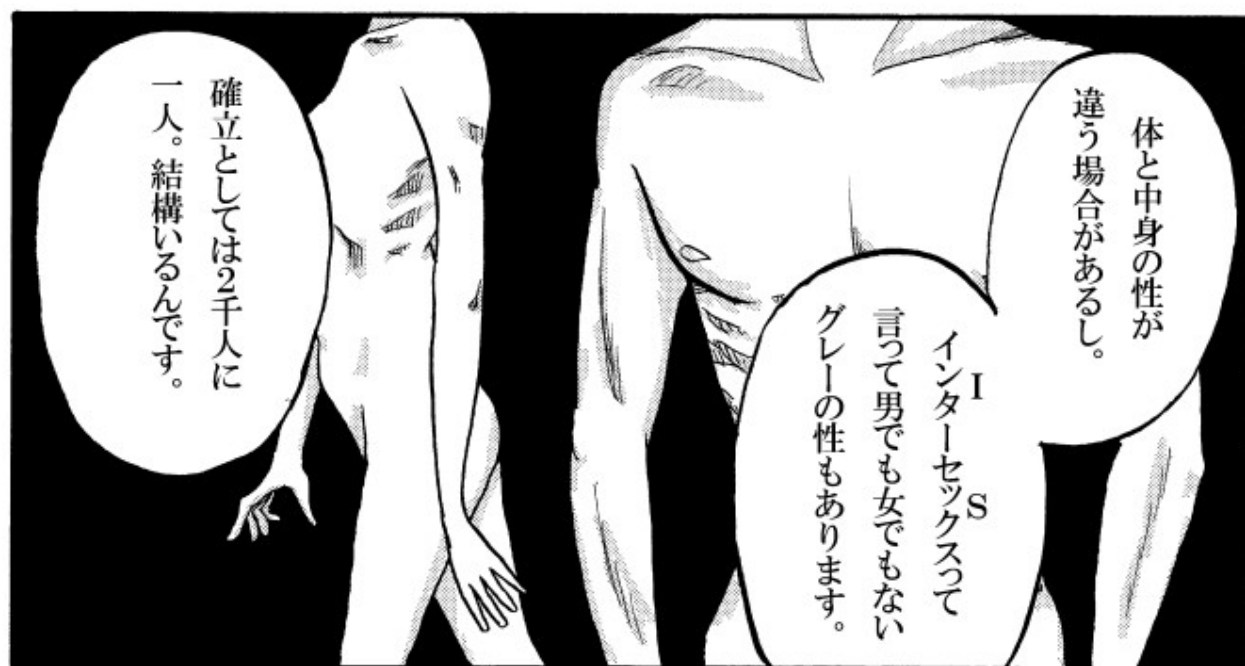
寺岡 正
三十歳

普通に男でしたよ。
4年前まではね。

前はそんな嗜好は
なかったし女の人は
好きでした。

でも僕みたいになる
のはそんな珍しいこと
でもないですよ。

そもそも性って
結構あやふやなもの
なんです。





……彼は会社の
同僚だったんです。

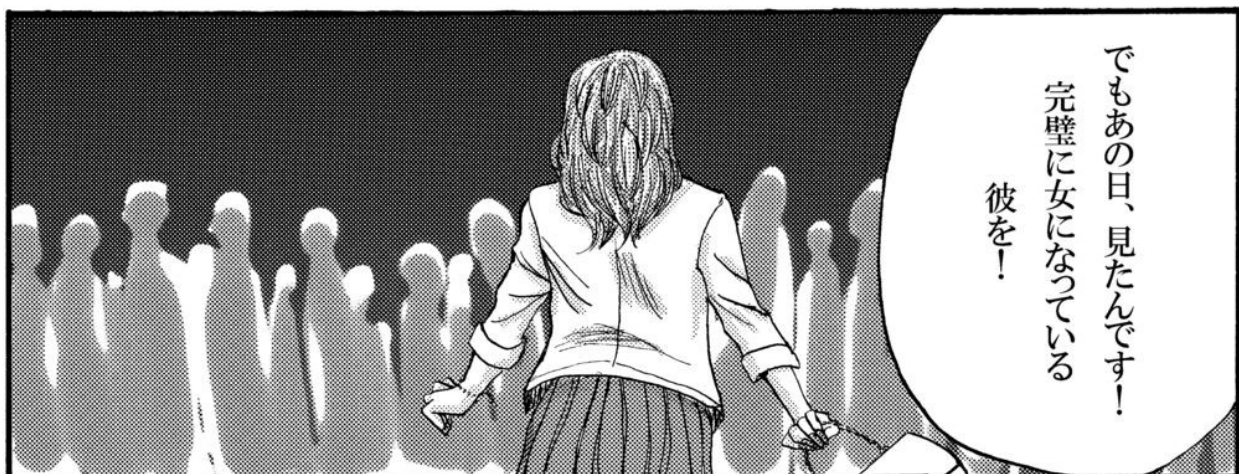


……。



いつもさみしげで…
他とは違う雰囲気を持
った人でした。

話してもどこかよそ
よそよそしくて…
仲良くなりたいと思
ってたんです。



でもあの日、見たんです！
完璧に女になっている
彼を！

そりや、驚きました。
他の人だつたら気付か
なかつたでしょうけど、

僕にはわかり
ました。

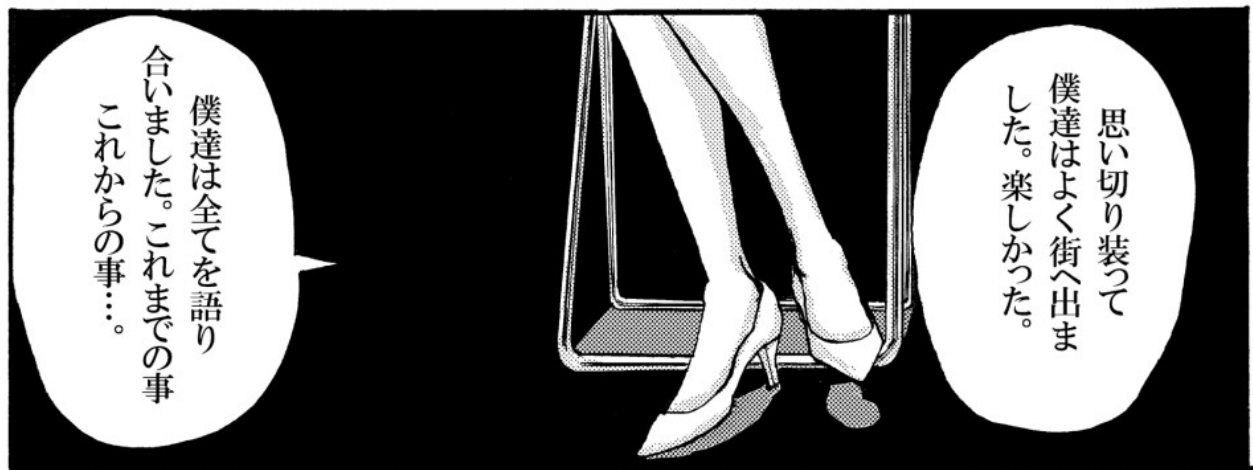
次の日彼に打ち
明けたんですけど、

彼、なかなか認めてくれ
ませんでした。だから
とつさに言つたんです。

“
実は僕も女に
なるのだ。”

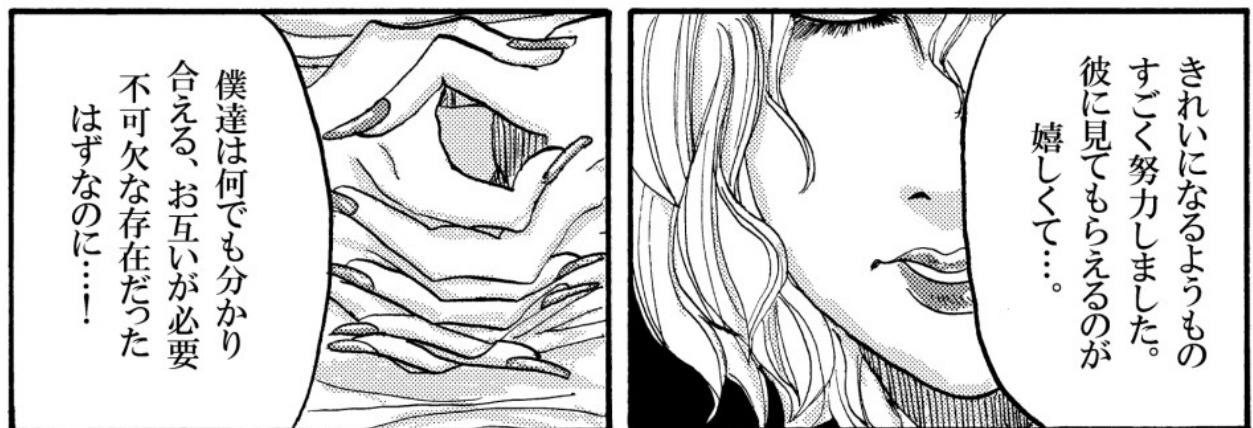
後から大急ぎでファッ
ション誌や服や化粧品を
買いあさりました。

すぐに打ち解けられま
した…。彼は同じ楽しみを
分かち合える仲間が
欲しかったんです。



思い切り装って
僕達はよく街へ出ま
した。楽しかった。

僕達は全てを語り
合いました。これまでの事
これからの事…。



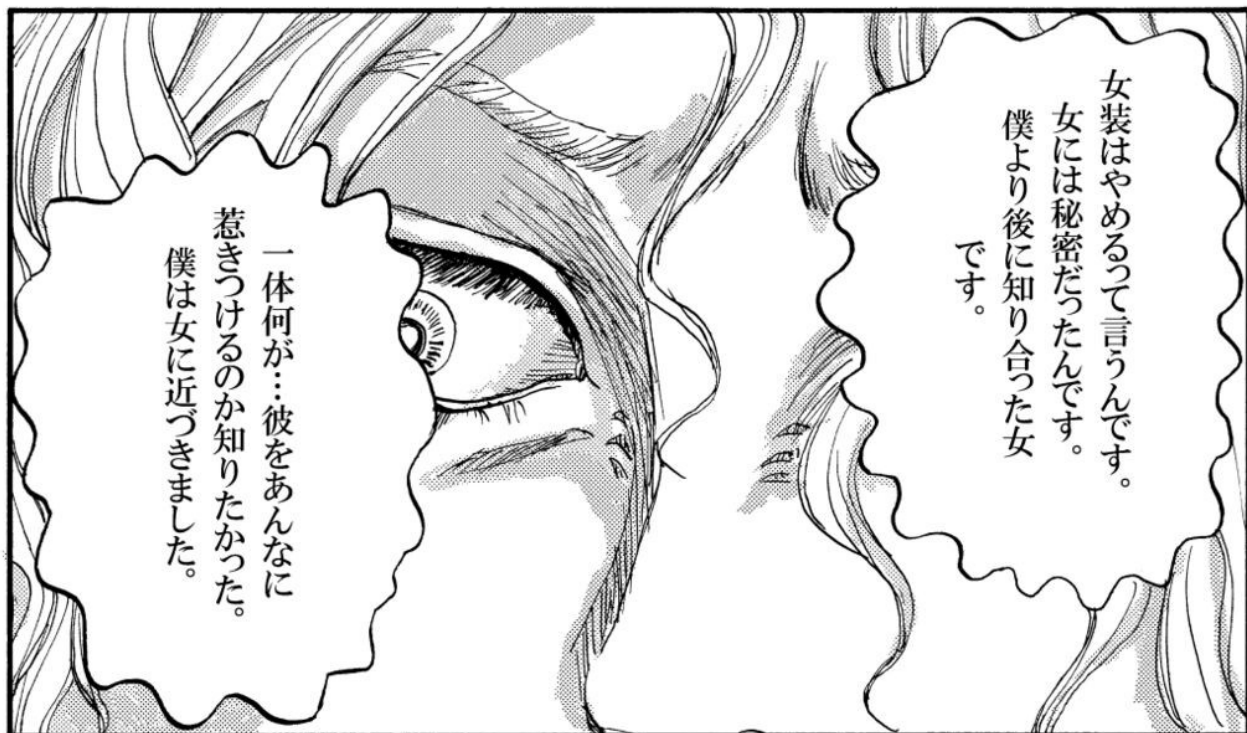
きれいになるようなもの
すごく努力しました。
彼に見てもらえるのが
嬉しくて…。

僕達は何でも分かり
合える、お互いが必要
不可欠な存在だった
はずなのに…！



婚約したっていうんです！
僕に会わせてきました！

全然知らない女…
僕のほうがよっぽど
きれいなのに！



女装はやめるって言ってます。
女には秘密だったんです。
僕より後に知り合った女
です。

一体何が…彼をあんなに
惹きつけるのか知れたかった。
僕は女に近づきました。



…つまらない女…
ただの女でした。

彼はただ女が
よかつたんです。
分かってました。



あんなに一緒にいても
大切でも
女が良かったんです。

…僕は女に吹き
ました。

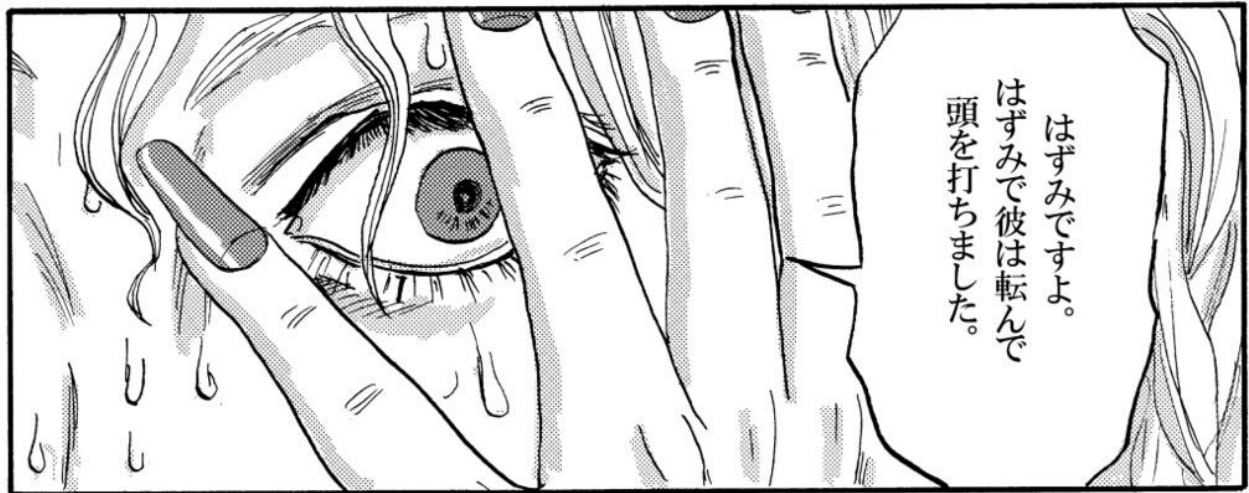
彼に別に女がいるって。
彼の使ってる化粧品
なんかを見せてね。





彼に首絞められた時もね。
そのまま死のうと思ったん
です。ほんとですよ！

ただ僕は彼に抱きついた！
彼は僕を力いっぱい振り
払った。そして……！



はずみですよ。
はずみで彼は転んで
頭を打ちました。



はあー…、はあー…、
あんな事で…死ぬなんて…。

はあー……。はは…。
分かりました？ 刑事さん。
僕はあの人を殺すなんて
しないんです！

